

日本都市社会学会ニュース

NO. 72 (2005.11.4.)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

専修大学文学部広田康生研究室内

E-Mail: u_socio@isc.senshu-u.ac.jp

FAX: 044-900-7814

(郵便振替口座：00140-4-703976)

ホームページURL: <http://www.soc.nii.ac.jp/urbansocio/>

第23回大会の報告

日本都市社会学会第23回大会が、9月6日(火)と7日(水)の両日にわたり、大妻女子大学多摩キャンパスで開催されました。台風の影響から時折強い雨風が吹き付ける中にもかかわらず、参加者は会員91名を数え、自由報告数29本と多彩な研究成果が報告されました。

本大会のシンポジウムは、現代日本の都市を、若者の文化・意識・行動を手がかりとして探るという観点から、「都市と若者」をテーマに議論が交わされました。

シンポジウムでは、都市を消費社会との関係から読み解くといった視点が提示され、「地方都市の地域性・場所性・歴史性の喪失」「どこへいってもミニ東京」「郊外文化の均質性・画一性」等の議論が展開されました。また、若者のメディア利用に関する研究成果から、「地方の若者にとって都市進出の旨みが減少し、地元でそこそこの幸福追求が可能」「上京することによる離脱から、メディア利用(メール等)による離脱」といった実態が示されました。

本シンポジウムで、特に興味深かったのは、地方都市で教鞭を取られ、学生と接しておられる討論者や司会者の先生方の、「都市と若者」の議論が、聴衆の視点からは地方都市論としても理解でき、その発展可能性を感じられた点にあります。また同時に、地方都市を理解するための様々なヒントを与えていただきました。

例えば、事例として挙げられた「10年前であれば東京に出ていっていた優秀な学生が今では県内就職できる」という工業高校進路指導担当教員(青森県)の語りはそのひとつです。

実際、地方都市から大都市への人口移動の推移を確認すると、1970年以降、減少の一途をたどってきています。しかし、私の出身地である香川県の人口移動を例にとれば、県内全体から大都市への移動は減少傾向にありながらも、県庁所在都市から大都市/他県への移動は増加傾向が続き、県内市町村から県庁所在都市への移動数には大きな変化はみられません。つまり地方都市の人口移動には、これまでの研究では十分に捉えきれていない構造変化が生じてきていることがわかります。今後は、こうした構造変化を含め、地方都市の諸事象を捉えていく必要性を感じました。ぜひ学会としても、「地方都市」を議論する機会を設けていただき、都市研究者が日頃から実感として持つ様々な意見を拝聴したいと切に希望いたします。

最後になりましたが、すばらしい環境で討議や懇談ができましたことを開催校の皆様方や事務局の皆様方に感謝いたしたく存じます。

(協 穂積 関西学院大学大学院博士課程後期課程)

2005 年度総会の記録

総会は、大会一日目の9月6日（火）、下記の次第に沿って行われました。

1. 開会の辞（玉野和志常任理事）
2. 会長挨拶（松本 康会長）
3. 開催校挨拶（大妻女子大学 山岸 健会員）
4. 座長推挙（菊池美代志会員を選出）

5. 諸報告

(1)2004 年度理事会報告

玉野和志常任理事（庶務担当）より 2004 年度の理事会に関する報告がありました。

(2)2004 年度企画委員会報告

田中重好常任理事（企画委員会委員長）より 2004 年度の企画委員会活動についての報告がありました。

(3)2004 年度編集委員会報告

渡戸一郎常任理事（編集委員会委員長）より 2004 年度の編集委員会活動についての報告がありました。

(4)その他

森岡清志前会長より、日本都市社会学会編『リーディングス 海外の都市社会学』（仮題）の進捗状況及び出版社（日本評論社）についての報告がありました。

6. 第四回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の選考結果報告と授与式

松本康会長より選考過程及び結果の報告があり、倉沢進・浅川達人編著『新版 東京の社会地図』（東京大学出版会、2004 年）に同賞が授与されました。なお、受賞者には会長より賞状と記念品が授与され、倉沢進会員の挨拶がありました。

7. 新入会員の紹介

玉野和志常任理事より新入会員 25 名が紹介され全員拍手を持って確認されました。

8. 議事

(1)2004 年度決算報告及び監査報告

後藤範章事務局担当理事から 2004 年度決算についての報告があり、江上渉監査から監査報告があり承認されました。

(2)2005 年度予算承認の件

後藤事務局担当理事から 2005 年度決算についての説明があり承認されました。

(3)学会事務局体制の件

①日本都市社会学会規約改正について

玉野和志常任理事より事務局体制に関する規約改正案についての説明があり承認されました。

②日本都市社会学会役員選出規程改正について

玉野常任理事より事務局体制に関する役員選出規程の改正案について説明があり承認されました。

③日本都市社会学会事務局の構成に関する細則（案）の設置について

玉野常任理事より事務局体制に関する細則（案）が提出、説明され承認されました。

(4)日本都市社会学会賞の件

①日本都市社会学会若手奨励賞の設置と内規（案）について

松本会長より日本都市社会学会若手奨励賞の設置と内規案についての説明があり異議なく承認されました。

②日本都市社会学会賞（磯村記念賞）内規改正について

松本会長より日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の内規改正案についての説明があり承認されました。

③日本都市社会学会賞選考委員会細則改正について

松本会長より日本都市社会学会賞選考委員会細則改正案についての説明があり承認されました。

(5)研究倫理委員会設置の件

松本会長から研究倫理委員会の設置に関する提案理由説明と細則案の提出があり、異議なく承認されました。

＊上記の規約、内規、細則の改正及び新設の詳細については「規約、内規、細則の改正、新設について」の項目参照。

(6)会員の個人情報取り扱いの件

後藤事務局担当理事より会員の個人情報の取り扱いに関する説明が行われ承認されました。

(7)役員選出の件

①選挙管理委員の推挙

松本会長より水上徹男会員、田淵六郎会員、西城戸誠会員、山口恵子会員、藤原法子会員の5氏に選挙管理委員を委嘱するとともに、水上会員に選挙管理委員会委員長を委嘱する旨提案があり、承認されました。

②会長選挙

役員選出規程第1条に基づき投票が行われ会長が選出されました。投票結果は以下のとおりです。

松本康会員 41 票 (次点：町村敬志会員 3 票 三浦典子会員 3 票 玉野和志会員 3 票)

③理事選挙

役員選出規程第3条及び第5条に基づき投票が行われ、全国区4名、地方区4名の新理事が選出されました。投票の結果は以下のとおりです。

全国区 (4名)

町村敬志会員 35 票 玉野和志会員 29 票 園部雅久会員 18 票 谷 富夫会員 15 票

(次点：金子勇会員 12 票)

地方区 (各地区1名)

北海道・東北地区 山下祐介会員 3 票 (次点：佐久間政広会員 1 票)

関東地区 広田康生会員 8 票 (次点：渡戸一郎会員 5 票)

中部・関西地区 田中重好会員 5 票 (次点：大谷信介会員 3 票)

中国・四国・九州地区 稲月 正会員 3 票 (次点：青木秀男会員 2 票)

④監査選挙

役員選出規程第3条に基づき投票が行われ新監査が選出されました。投票の結果は以下のとおりです。

江上 渉会員 6 票 金子 勇会員 6 票

(8)次回大会の件

松本会長より2006年度の大会(第24回大会)を、9月15日(金)、16日(土)に、名古屋大学で開催する旨の報告があり承認されました。また、大会開催校を代表して名古屋大学・田中重好会員より挨拶がありました。

9. 閉会の辞(玉野和志常任理事)

<規約、内規、細則の改正、新設について>

本学会ニュースでは、2005年9月に改正され及び新設された規約、内規、細則の要点のみを掲載します。改正された条文及び新設された条文については「日本都市社会学会会員名簿(2005年版)」の巻末をご参照下さい。

1. 事務局体制に関する規約改正

「日本都市社会学会規約」

第4条(6) 「必要に応じて事務局長1名、事務局幹事若干名」に改正

第7条(5) 「事務局(事務局の構成については細則で別に定める)」に改正

「役員選出規程」

第6条 「常任理事は、理事のうちから、事務局長と事務局幹事は必要に応じて会員のうちから、会長が指名する」に改正

2. 「日本都市社会学会事務局の構成に関する細則」の新設

1. 事務局の構成は、次のとおりとする。

(1)会長

(2)常任理事

(3)役員選出規程第5条にもとづく事務局担当理事

(4)役員選出規程第6条にもとづく事務局長および事務局幹事若干名

3. 「日本都市社会学会若手奨励賞内規」の新設の要点

本内規では、1. 目的および名称、2. 受賞資格者、3. 受賞対象、4. 選考委員会、5. 推薦委員、6. 選考の方法、7. 受賞対象件数、8. 受賞対象の決定および公表、9. 本内規の変更に係る規程が定められています。付則として「1. 本内規は2005年9月7日より施行する」と記されています。

「1. 目的および名称」には、「日本都市社会学会規約第2条第3項の定めるところにより、都市社会学に関する、将来性に富み、奨励に値する、優れた研究業績を顕彰するために、日本都市社会学会若手奨励賞を設ける」ことが明記されています。「2. 受賞資格者」は、「受賞対象となる研究業績の公刊時点で、博士（後期）課程入学後10年以内の研究歴をもつ日本都市社会学会会員」と明記されています。「3. 受賞対象」としては、上記の資格者が公刊した著書または論文で、1) 単著書、2) 共著書に収められた単著論文、3) レフェリー制のある社会学関係学術雑誌に発表した単著論文、4) 前項にかかわらず、とくに優秀と認められる単著論文、ただし、1)～4)のいずれにおいても、少人数の実質的共著であって共著者全員が前条で定める資格を満たしている場合には、対象に含めることがあるとされています。「4. 選考委員会」の条項には「選考は、日本都市社会学会賞選考委員会が行う」と明記されています。「5. 推薦委員」では、「推薦委員を委嘱する」ことが定められています。「6. 選考の方法」では、委員会発足の前年から当該年の2年間に公刊された著書・論文について「(1) 会員の自薦、他薦、(2) 推薦委員による推薦、(3) 学会事務局が会員を対象に行う文献調査」をもとに選考することが明記されています。「7. 受賞対象件数」は、「著書・論文を問わず合計1件以上4件以内とする」と明記されています。「8. 受賞対象の決定および公表」については「日本都市社会学会賞選考委員会が行う。選考委員会は、委員会発足の翌年7月末日までに、選考結果を選考理由とともに理事会に報告し」、「理事会はこれを承認し、年次大会において公表する」とされています。

4. 日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の内規改正

若手奨励賞内規の新設にともない名称を「日本都市社会学会賞（磯村記念賞）内規」に変更しました。旧内規「1. 総則」を「1. 目的」と改め、条文はそのまま継承しました。旧内規「2. 目的」は新旧1と重複するので廃止しました。また、旧内規「3」は、「2. 名称」として継承しました。旧内規4は、「3. 受賞資格者および対象」と条文の見出しをかせ継承しました。旧内規5は、「4. 選考委員会」として継承し、細則規程を付則から移動させました。選考の方法については、旧委員会細則から移し、「5. 選考の方法」として明記しました。選考の基準についても、旧委員会細則から移し、「6. 選考の基準」としました。選考対象件数についても旧委員会細則から移し「7. 受賞対象件数」として文言を整理しました。旧内規6は、「8. 受賞対象の決定および公表」として継承し、決定は選考委員会が行い、選考理由とともに理事会に報告する旨を明記しました。旧内規付則1は削除しました。旧内規付則2は、付則4になりました。

5. 日本都市社会学会賞選考委員会細則の改正

旧細則1については、他の委員会細則では、根拠規定は示されていないので、廃止しました。旧細則にある委員の任期規程については、「4. 委員の任期」として別に立てました。旧細則2は、「1. 委員の委嘱」として継承しました。旧細則3は、「2. 委員長」としました。

6. 研究倫理委員会細則の新設の要点

日本都市社会学会規約第7条第4項にもとづき研究倫理委員会を新設しました。研究倫理委員会細則は、1. 目的、2. 委員の構成、3. 委員の委嘱と任期、4. 委員の任務の条項で構成されています。「1. 目的」では、「日本都市社会学会倫理綱領（倫理宣言、倫理コードなどを含む…）」の策定に関する事項を検討するために設置されたことが明記されています。「2. 委員の構成」については、(1) 会長、(2) 会長が指名する理事若干名、(3) その他理事会の議を経て会員のうちから会長が指名する委員を加えることができる、とされています。「3. 委員の委嘱と任期」では、「(1) 委員長、委員は、理事会の議を経て、会長が指名する。ただし、会長は委員長をかねることができる」とされ、また、委員の任期は「2007年9月までとする」と定められています。

2004 年度決算報告および 2005 年度予算

2004年度決算(2004年4月1日～2005年3月31日)

収入項目	予算	決算	備考	支出項目	予算	決算	備考
入会金	40,000	40,000	20人分	消耗品費	50,000	22,877	文具、封筒等
学会費	1,170,000	1,221,000	一般171名 学生45名	通信費	185,000	117,295	
広告収入	100,000	70,000	03・04年度分	ニュース印刷費	80,000	86,640	350部×2回、400部×1回
雑収入	40,000	27,937	複写権収入等	年報印刷費	530,000	583,852	
年報販売	110,000	111,780	学会事務局扱い (ただし旧学会事務セン ター分3780円を含む)	大会開催費	120,000	120,000	
				役員・委員会費	130,000	74,500	委員交通費含む
				事務局費	400,000	369,150	事務局手当、アルバイト代含む
				編集委員会事務局費	80,000	37,720	
繰越金	969,247	969,247		予備費	854,247	101,500	秋元元理事・矢崎元理事のご葬儀 献花・香典代、大会シンポジスト (那珂正氏)の御車代を含む
計	2,429,247	2,439,964			2,429,247	1,513,534	
				次年度繰越金		926,430	

2005年度予算(2005年4月1日～2006年3月31日)

収入項目	予算	備考	支出項目	予算	備考
入会金	52,000	26人分	消耗品費	70,000	文具、封筒等
学会費	1,200,000	一般196人分 学生55人分	通信費	150,000	
広告収入	60,000	04,05年度分	ニュース印刷費	90,000	350部×2回、400部×1回
雑収入	40,000	複写権収入等	年報印刷費	644,700	500部
年報販売	110,000		大会開催費	120,000	
			役員・委員会費	100,000	役員・委員の交通費を含む
			事務局費	400,000	事務局員手当、アルバイト代、事務 局員交通費及び年報販売業務費を 含む
			名簿印刷費	70,000	
			編集委員会事務局費	80,000	編集関係通信費、事務局員手 当を含む
繰越金	926,430		予備費	663,730	
計	2,388,430			2,388,430	

2005 年度臨時総会の記録

9月7日(水)、2005年度第2回理事会終了後の午後1時から臨時総会が開催されました。松本康会長より以下の報告があり、承認されました。

- 役員選出規定第6条にもとづき、常任理事として理事のうちから谷富夫、広田康生、町村敬志の3名を指名した。
- 理事のうち、各種委員会の委員長および委員の分担は以下のとおり。

[企画委員会]	委員長：園部雅久理事	担当理事：谷富夫常任理事	田中重好理事
[編集委員会]	委員長：町村敬志常任理事	担当理事：山下祐介理事	
[国際交流委員会]	委員長：松本康会長	担当理事：町村敬志常任理事	田中重好理事 稲月正理事
[研究倫理委員会]	委員長：松本康会長	担当理事：谷富夫常任理事	玉野和志理事 稲月正理事
- 事務局を、2005年9月から2007年9月までの2年間、専修大学文学部広田康生研究室におく。事務局は、広田常任理事が担当するほか、事務局長として藤原法子会員を指名した。
- 学会賞選考委員会の除く各委員会委員および日本都市社会学会若手奨励賞推薦委員については人選中であり、総計でかなりの数にのぼるので、会員各位のご協力を是非賜りたい。

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

まだ学会費を納入されていない会員の方には、学会費納入用の振込用紙を本ニュースに同封いたしましたので、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。なお、前年度(2004年度)までの学会費が未納の会員の方には『日本都市社会学会年報』23号をお送りできませんのでご了承ください。なお、『年報』に関しましては、事務局が学会費納入を確認し次第お送りいたします。また、継続して5年以上会費を滞納している会員の方は、2005年度中に滞納分の会費を納入していただかないと会員の資格を失うことになりますので、ご注意ください。

2. 第24回大会開催について

第24回大会は、2006年9月15日(金)、16日(土)に、名古屋大学にて開催されることが、第23回大会の総

会で決定されました。

3. 理事会報告

(1)2004—2005 年度第 3 回理事会報告

9月5日(月)15:00より、第3回理事会が大妻女子大学で開催されました。本理事会では、①企画委員会、編集委員会からそれぞれの活動とともに申し送り事項が報告されました。特に編集委員会からは『年報』への投稿希望者の増加とともに、次年度に査読委員会を設置することが望ましい旨の提案がありました。企画委員会からは第23回大会でのシンポジウム企画の過程についての説明がありました。審議事項として①新入会員、退会者について、②事務局体制に関わる規約及び役員選出規程の改正、事務局の構成に関する細則の設置についての提案、日本都市社会学会賞若手奨励賞の新設及び同内規案についての提案があり、奨励賞については推薦委員をおくことなどが提案され総会に諮ることが承認されました。③会長から研究倫理委員会の設置に関する理由説明と細則(案)の提出があり総会に諮ることが承認されました。④日本都市社会学会賞について、森岡清志学会賞選考委員会委員長に代わり松本会長より経過と結果説明があり倉沢進・浅川達人編著『新版 東京の社会地図』(東大出版会、2004)が受賞した旨の報告があり承認されました。⑤第23回大会の総会次第についての報告がありました。

(2)2005—2006 年度第 1 回・第 2 回理事会報告

2005 年度第 1 回理事会は、9月6日(火)、第23回大会での総会終了後開催され、理事の役割分担が決定されました。詳しくは、「臨時総会の記録」の項をご覧ください。2005 年度第 2 回理事会は、9月7日(火)午前10時30分より開催され、①第一回理事会で承認された役割分担の確認が行われ臨時総会に提案されることが承認されました。②企画委員会、編集委員会、研究倫理委員会、国際交流委員会の委員候補者が選定され、次回理事会までに内諾を得ることが確認されました。③新事務局体制の確認が行われ、事務局長に藤原法子会員が指名されました。④総会での承認を受けて、次回理事会までに会長から若手奨励賞推薦委員候補を提案することが決まりました。

(3)2005—2006 年度第 3 回理事会報告

2005 年度第 3 回理事会は、10月16日(日)午後1時から専修大学神田校舎で開催されました。①企画委員会、編集委員会からそれぞれの委員候補が確定したことが報告されました。委員は以下のとおりです。

企画委員会	谷富夫(担当理事)、田中重好(担当理事)、浅川達人会員、新田目夏実会員、飯田俊郎会員、都築くるみ会員、中筋直哉会員、早川洋行会員、松蔭祐子会員、若林幹夫会員、和崎春日会員
編集委員会	山下祐介(担当理事)、小松秀雄会員、武田尚子会員、田嶋淳子会員(国際交流委員兼任)、中澤秀雄会員、西澤晃彦会員、松宮朝会員、横田尚俊会員
国際交流委員会	稲月正(担当理事)、田中重好(担当理事)、町村敬志(担当理事)、新田目夏実会員、田嶋淳子会員、魯富子会員
研究倫理委員会	稲月正(担当理事)、谷富夫(担当常任理事)、玉野和志(担当理事)、江上渉(監査)、後藤範章会員、西村雄郎会員、山本努会員

②日本都市社会学会若手奨励賞の推薦委員として、松本会長より51名が挙げられ承認されました。③編集委員会のもとに査読委員会をおくことが了承され、査読委員として14名が挙げられ承認されました。任期は2年で委員の氏名については任期が終了する年度の『年報』に公表することになりました。④年報の学術雑誌としての向上、科学研究費補助金「学術定期刊行物」への申請も考え、同『年報』自由投稿論文に欧文抄録をつけることが了承されました。⑤研究倫理委員会に、倫理綱領および質問紙調査のガイドラインの原案の作成について諮問されました。⑥12月11日(日)の企画委員会の終了後15:30から2005年度第四回理事会を専修大学で開催することに決まりました。(常任理事 広田康生)

編集委員会からのお知らせ

◆ 編集委員会事務局の移転について

新体制の編集委員会の発足に伴い、編集委員会事務局を明星大学の渡戸研究室から一橋大学の町村研究室へ移転することになりました。引き続き、完全原稿ご提出以降の作業をハーベスト社へ業務委託する予定です。この他、基本的にこれまでの編集委員会の方針を踏襲して編集事務を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

新編集委員会事務局の住所は次の通りです。投稿先の宛名も次の住所に変更になりますので、ご注意下さい。

〒186-8601
東京都国立市中2-1
一橋大学大学院社会学研究科 町村研究室 気付
日本都市社会学会編集委員会事務局
電話・FAX：042-580-8642（町村研究室直通）
E-mail：cs00035@srv.cc.hit-u.ac.jp

◆『日本都市社会学会年報』24号（2006年発行）自由投稿論文および研究ノートの募集について

すでにお知らせの通り、編集委員会では年報24号に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集しています。投稿を希望される会員の方は、『年報』23号（2005年発行）に掲載されている編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿（3部）を2005年11月末日までに上記の新しい編集委員会事務局（一橋大学町村研究室）までお送り下さい。

なお、原稿中に図表を用いる場合には、できる限り横罫線のみ使用とし、縦罫線の使用はなるべくご遠慮下さい。編集コスト削減およびデザイン統一のための措置ですので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。会員諸氏の積極的な投稿をお待ちしています。（編集委員長 町村敬志）

第1回日本都市社会学会若手奨励賞候補の文献調査および推薦に関するお願い

2005年度総会で承認された日本都市社会学会若手奨励賞内規にもとづき、文献調査を行います。また、あわせて自薦・他薦の応募を受け付けます。今回、対象となるのは、(1)2004年1月から2005年12月末日までに公刊された著書・論文であって、(2)公刊時点で、著者が、博士（後期）課程入学後10年以内であった、日本都市社会学会会員の研究業績です（総会記録もご参照下さい）。

文献調査 上記の基準を満たす著書・論文を発表した会員は、同封の調査用紙に所定事項を記入の上、2006年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。この情報は、選考対象の母集団を構成するものですので、条件を満たすすべての研究業績についてご記入下さい。

自薦・他薦 上記の基準を満たす著書・論文のうち、同賞にふさわしい「都市社会学に関する、将来性に富み、奨励に値する、優れた研究業績」をご推薦下さい。会員であれば、だれでも推薦者となることができます。自薦も歓迎します。なお、他薦であって、上記の基準(2)を満たしているかどうかを確認できない場合には、その旨の注記をお願いいたします。同封の調査用紙の自薦・他薦欄に所定事項を記入の上、2006年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。

宛先／問い合わせ先 学会事務局の住所は、本ニュース1頁目にあります。予算の関係上、送料は自己負担でお願いいたします。また、この件についてのお問い合わせは、学会事務局までe-mailでお願いいたします。

（会長 松本 康）

会員異動

新 入 会 員

<北海道・東北>

羽瀧 一代 弘前大学

<関東>

荒又 美陽 恵泉女学園大学

右京 信治 法政大学大学院

金 明淑 首都大学東京大学院

佐野 俊幸 首都大学東京大学院

飯田 豊 東京大学大学院

片田 恭平 首都大学東京大学院

坂本 朋子 日本大学大学院

竹元 秀樹 法政大学大学院

寺田 篤生 一橋大学大学院
 夫 徳 柱 慶應義塾大学大学院
 三田 知実 首都大学東京大学院
 森 忠彦 日本大学大学院

<中部・関西>

木村 玲欧 名古屋大学大学院
 杉本久未子 大阪人間科学大学
 田 潤 六郎 名古屋大学大学院

<中国・四国・九州>

田中 耕市 徳島大学

<海外>

張 元皓 ソウル市立大学

南後 由和 東京大学大学院
 堀 崇樹 日本大学大学院
 丸山 真央 一橋大学大学院・日本学術振興会
 山本 英弘 日本学術振興会

熊谷 美香 大阪市立大学大学院
 高木 一成 (株)サーベイリサーチセンター
 堤 圭史郎 大阪市立大学大学院

遠山 茂樹 高知大学

学会事務局より

◆学会事務局の移転について

2005年度大会から2007年度大会まで学会事務局が専修大学文学部広田研究室に置かれることになりました。移転に伴い学会員の皆様には何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、会員の皆様のご協力を得て仕事をしていく所存ですのでどうかよろしくお願いいたします。なお、学会ニュースの1ページ目に新事務局の連絡先がでていますが、会員の皆様からのお問い合わせやご連絡に関しては、前学会事務局同様、ファックスもしくはe-mailでお願い出来れば幸いです。

- ◆ 大会に参加されなかった会員の皆様で、2004年度分までの会費納入済みの皆様には『日本都市社会学会年報23』、前事務局で作成していただいた「日本都市社会学会会員名簿2005年版」そして学会ニュースを同封いたしました。会費未納の皆様には、会員名簿と学会ニュースのみを同封いたしました。

- ◆ 第23回大会は台風の影響にもかかわらず活気に溢れた大会になりました。開催校の大妻女子大学山岸健会員、久保田滋会員に新事務局からもお礼申し上げます。そして、前学会事務局の後藤範章会員、事務局幹事をされた松橋達矢会員、そして楊盈璋会員（日本大学大学院）、事務局員高橋隆介氏（日本大学学生）、石田晴香氏（日本大学学生）のご尽力に感謝いたします。本当にご苦労様でした。

(事務局)

2003年1月～2004年12月に出版・刊行された著書等に関する調査結果

氏名(所属)	単著・共著・編著	書名	出版社名
浅川 達人(放送大学)	編著	新編東京圏の社会地図1975-90	東京大学出版会
同	編著	SPSSによる看護・福祉・医学統計学入門 (改訂版)	福村出版
金子 勇(北海道大学)	単著	都市の少子社会	東京大学出版会
金子 毅(埼玉大学)	単著	八幡製鉄所-職工たちの社会誌	草風館
倉沢 進	編著	新編東京圏の社会地図1975-90	東京大学出版会
高橋 英博(宮城学院女子大学)	単著	グローバル経済と東北の工業社会 -場所の個性・場所への意図・場所の思想-	東北大学出版会
橋本 和孝(関東学院大学)	単著	Understanding Japan, Singapore, and Vietnam	The Hokuseido Press
早川 洋行(滋賀大学)	編著	第3版応用社会学のすすめ	学文社
	単著	ジメルの社会学理論-現代的解読の試み	世界思想社
平川 毅彦(富山大学)	単著	「福祉コミュニティ」と地域社会	世界思想社
三浦 典子(山口大学)	単著	企業の社会貢献とコミュニティ	ミネルヴァ書房
山本 努(広島県立大学)	編著	欲望社会-マクロ社会の病理- (社会病理学講座第2巻)	学文社
吉原 直樹(東北大学)	単著	時間と空間で読む近代の物語	有斐閣
若林 敬子(東京農工大学)	単著	中国の人口問題と社会的現実	ミネルヴァ書房
渡戸 一郎(明星大学)	共編著	都市的世界/コミュニティ/エスニシティ -ポストメトロポリス期の都市エスノグラフィ集成-	明石書店
同	共訳	W.L.ワラス『エスニシティ・人種・ナショナルリティのゆく	ミネルヴァ書房